

特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン

A B L E
A R T
JAPAN

2023年度 事業報告(案)
[期間:2023年4月1日～2024年3月31日]

2024年6月22日

■2023年度 事業報告

[2023年度を振り返って] エイブルアート・ムーブメントの現在地

1994年に任意団体(日本障害者芸術文化協会)として発足した弊団体は、2023年に創設30周年を迎えた。1995年の阪神淡路大震災、オウムサリン事件を契機として「エイブルアート・ムーブメント(可能性の芸術運動)」の思想が生まれ、2011年のNPO法人化の過程で、活動の主たる対象が「障害のある人」から「生きにくさを抱える人」を包摂するものに拡大し、「社会の芸術化・芸術の社会化」というビジョンが示された。その後、2011年3月の東日本大震災の発災により、法人のミッションである「いのちへの問と芸術文化の可能性」を拓く活動拠点として、東北事務局を開設し13年目がたった。この間、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連する事業の浮き沈みを経験しつつも、コロナ禍の困難に真摯に向き合うなかで、オンラインツールを活用した創造・鑑賞等の場における協働者が増え、これが今まさに法人の確たる事業になりつつある。アフターコロナの年にふさわしく、多様な障害のある人、家族や支援者、ボランティア、そしてスタッフと出会い、活発に協働した、そのような年だったと考える。

[2023年度の行動指針]

1. NPOの理念と支援への協力を発信(基盤のリニューアル)

エイブルアートの理念、そして活動の今を知りたい方々へ、ファンをつくり、共感をバネに協働者や会員、寄付者を増やしていく挑戦を継続します。オンラインサロン、事業報告会のオンライン化、そのアーカイブと発信等です。またウェブサイトのリニューアルに取り組み、SNSの更新と連動していきます。

2. オンラインによる未来志向の実践(再掲)

オンラインは、物理的な空間をこえて対話できることを実感できる利点もあります。この時代に私たちが与えられたひとつのメディア(道具)として、オンラインともうまくつきあっていくような知恵を、とくに障害者・生活困窮者・高齢者等のNPOの現場とも共有します。学習支援環境の劇的な変化が先行する子ども支援、教育支援NPOにたくさんヒントがあるはずです。異業種の活動に学びながら実践を高めます。

3. 社会に生じる新たな‘障害’に向き合い、その課題解決を通じて事業(仕事)を生む(再掲)

コロナ禍、社会に生じる‘障害’に向き合い、その課題解決にむけて活動していたら、いつの間にか事業が生まれ、また支援の輪が広がりました。NPOの財源バランスにとって重要な、自主事業～自ら仕事をおこし、持続していくための事業を、このターニングポイントにこそ開発していきます。

4. 組織基盤の強化(再掲)

2019年度の振り返りのなかで課題になった点「組織基盤強化」に着手したいと考えています。法人の運営を担う中堅職員の雇用、法人の各種規程の整備と改訂、そして会員の仕組みについての見直し等です。理事やスタッフ、第3者を含めてワーキングチームをつくり取り組みます。

[スタッフ体制]

【法人本部/東京事務局】

渡邊 遥(常勤/2023年10月～)

一般企業の社内デザイナー、大学の専任助手を経て入職。現在、ミュージアム・アクセス・センター事業、東京事務局に関する全体の事業を担当。

水野 拓哉(常勤/2023年10月～)

イギリス大学院の美術教育普及を修了、インフラエンジニアを経て、現在、ミュージアム・アクセス・センター事業、法人のデータベース管理・活用、広報活動を担当。

内野 悅子(非常勤/2015年9月～)

法人事務局の経理、労務を担当。

原衛 典子(非常勤/2019年4月～)

家業の経理事務、飲食業に従事。法人の広報活動およびミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

平澤 咲(非常勤/2019年4月～2024年3月)

福祉事業所にて手織りと紙漉きの創作サポートとケア、都内公園にて誰もが参加できる体験プログラム企画やアクセシビリティに携わる。ミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

今野 優紀(非常勤/2021年8月～)

デザインの展示施設にて企画アシスタント、障害のある人の表現活動を社会に伝えるプロジェクトにて展覧会事業を担当する等、主に展覧会の制作やマネジメント、コーディネートを務める。現在はミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

【東北事務局】

伊藤 光栄(常勤/2021年6月～2024年6月)

特別支援学校教員やイラスト制作会社、遊漁船業を経て入職。障害者の生涯学習事業、エイブルアート・カンパニー事業、南東北・北関東広域センター(専門的支援/生涯学習)、法人のデータベース管理・活用、広報活動を担当。

高橋 梨佳(常勤/2022年5月30日～)

元生涯学習施設のバリアフリー担当職員のなか、エイブルアートの各種事業にボランティアとして参加し、その後、入職。障害者芸術活動支援センター@宮城、南東北・北関東広域センター、オープンアトリエ事業、ミュージアム・アクセス・センター事業、広報活動を担当。

伊藤 いづみ(非常勤/2021年6月～)

2018年から家族とともにエイブルアートのアトリエ＆スタジオに参加。オープンアトリエ事業、ショップ事業、東北事務局の経理・総務を担当。

【エイブルアート・カンパニー東京事務局】

中塚 翔子(常勤/2016年7月～)

社会福祉法人わたぼうしの会所属/一般財団法人たんぽぽの家出向。エイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

大井 卓也(常勤/2021年12月～2024年3月)

一般財団法人たんぽぽの家所属。2021年12月からエイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

小林 加奈(非常勤/2022年8月～)

エイブルアート・カンパニープロジェクトスタッフ。月8日程度勤務。デザインに関わる仕事に長く携わり、アート巡りが趣味。カンパニーアーティストとのやりとりをはじめ、提案書の作成や展示パネルのデザインも担う。

[スタッフ体制を振り返って]

- ・事業の拡大に応じて、常勤職員を2人増員。東京事務局6人(常勤2・非常勤4)、東北事務局4人(常勤3・非常勤1)。
- ・常勤スタッフは、職歴や経験値をもとに、チーフ職として、事業の申請や企画提案、進行管理、予算管理等を総合的にマネジメントに従事した。
- ・コロナ禍、在宅勤務やフレックス制を継続した。コミュニケーションツール(Google Workshopやslack等)を活用し、各事業のタスク管理をオンライン上で行い、これを事務局長ほかスタッフが常時確認できるようにした。
- ・東京と東北の合同スタッフ会議をオンラインで月1回開催。上半期は組織全体の事業への理解、情報交換を実施し、後半は、活発化する事業にあわせて、具体的な連携を促した。

■事業内容

[総務]

1. 会議等の業務

【第13回通常総会の開催】

日時: 2023年6月17日(土)14:00~16:00

場所: 東京事務局、東北事務局、オンラインミーティングシステムZoom会議

2022年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認

2023年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の承認

【第24回理事会の開催】

日時: 2023年5月17日(水)18:30~20:30

場所: オンラインミーティングシステムZoom会議室

2022年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認

2023年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の検討 ほか

2. 会員に対する業務

・会員の入会、継続、休会に伴う業務

・2022年度事業報告・活動計算書および2023年度事業計画(案)・活動計算書(案)の送付

・ニュースレターと事業案内を発送(年2回)およびウェブサイト、SNSによる発信強化

3. 経理等の業務

・資金管理として、現預金等の日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、エバーグリーン税理士法人(東京)

・運営基盤の確立のために月次ごとの収支計画をたて、確実に遂行▲(半期ごとのペースにとどまる)

・税務に関する業務として、法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務

4. 労務管理等の業務

・法人でスタッフを雇用するための準備

・法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮

・各種規程・規則の変更を検討、職員給与の検討▲ハラスメントの禁止、職員の休日、教育訓練の詳細は未着手

5. 総務関連等の業務

・業務運営に必要な届出業務

・NPO法人としての東京都への2021年度事業報告・活動計算書の提出(総会後6月末完了)

・当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

6. 広報・寄付キャンペーン等の業務

・ウェブサイト、フェイスブック、データベースを活用した広報活動

・寄付キャンペーンの実施、会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンの実施▲寄付サイトは更新済、会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンは未着手

・データベースの活用:組織内で運用方法のルール化をすすめる。個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付の呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報等の発信・申込み管理等を実施

* 事業パートナー: 北田郭時(広報・ウェブサイトの更新で事務局運営をサポート)

【情報収集・発信(2023年4月～2024年3月)】 * 新聞等メディア実績は別紙参照

事務局	媒体	投稿数	アクセス数
法人本部	ホームページ	44	14,180
	Facebook(フォロワー4,653人)	121	64,588
	Instagram(フォロワー538人)	14	-
東北事務局	ホームページ	78	40,103
	Facebook(フォロワー1,156人)	244	49,793
	Instagram(フォロワー410人)	58	16,774
	Youtubeチャンネル(登録者数84人)	-	-
みんなでミュージアム	ホームページ	25	17236
	Facebook(フォロワー102人)	44	-
	Instagram(フォロワー66人)	18	-

7. そのほか

- ・本法人とエイブルアート・カンパニー東京事務局の事務所経費の内容を見直した(地代家賃、水道光熱費、通信費等)
 - ・東北事務局は、2022年8月から入居していた仙台フォーラスの建物・設備調査による一時休業に伴い、2024年3月に仙台市青葉区上杉(かみすぎ)に事務所を移転した。事務所の2軒隣に「上杉コミュニティ・センター」があり、ここを会議やアトリエ等の開催場所として使用している。
- 【NPO法人エイブル・アート・ジャパン/エイブルアート・カンパニー東北事務局】
980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉4-1-50 1階
tel 070-5328-4208 fax 022-774-1576



東北事務局の新事務所

[総務部門を振り返って]

1. 総会、理事会、会員に関する業務の体制の見直し

- ・スタッフ体制が充実し、理事会や総会資料、会員向けニュースレターの作成を分担することができている。
- ・会員へのニュースレター発行および会費案内業務には、ボランティア(障害のある人含)も参加。
- ・会費未納等により自動的に退会扱いも微増。
- ・企業会員とは、具体的な事業実践(スカラシップ事業)や、新たな協働(社員向け研修)に向けてコミュニケーションを継続できた。
- ・理事会は春に1回しか開催できなかった。代表兼事務局長体制の変更を目指し、2024年度から事務局長補佐を指名し、体制変更にむけた準備をする。

2. 総務、経理の体制の強化

- ・事業規模の拡大に合わせ、支払い業務等のヌケモレを防ぐよう仕組みを見直し、それを継続している。
- ・国の委託事業(とくに文化庁・厚労省・文科省)決算時の業務対応のため、内部人材で体制の見直しをはかりこれを継続している。中堅スタッフも会計にかかわることで、自主事業の開発や見積もり、対外的な営業活動、NPOの経営について学ぶ機会にもなっている。

3. 広報まわりの体制の強化

- ・現在、ウェブサイト・Facebook・インスタグラム・YouTubeチャンネル等多様な広報メディアを使用している。それぞれの特性と広報戦略について、外部専門家を招き、学びの機会をもち、NPO活動にとって最適な手法や持続可能な運営を探った。
- ・スタッフ自らが、活動を言語化し、それをウェブやSNSで発信し、かつ外部メディアに寄稿したり発表をした。

[企画事業]

□ 事業のハイライト

・東京事務局は、「ミュージアム・アクセス・センター設立事業」(文化庁助成)は、初(2020)年度の調査・ヒアリングの結果をベースに、2年目(2021年度)は、具体的な実践および事業提案のフェーズにうつった。相談支援、人材育成(手法検討)、実践、ネットワーク化とを並走し、3年目活動後の自走化をめざして活動している。

・東北事務局は、宮城県の支援センター事業は5年目、文科省「障害者の生涯学習に関する実践研究」と厚労省「障害者芸術文化活動普及支援事業 南東北・北関東広域センター」事業が2年目となった。福祉・文化・教育・経済分野を横断した中間支援組織の活動として、また地方都市発からの実践活動として、とくに自治体関係者からの問い合わせや相談が多い。

1. A/A gallery事業

【方針】

2023年3月のアーツ千代田3331からの退去とともに、場は閉鎖したが、エイブルアート・カンパニー登録作家、MHDスカラシップ事業、相談支援業務からの発展等で、個別に対応する。

2. A/A shop事業

【方針】ネットワーク化、人材育成に資するもの、収益が見込めるものに限って対応した。

【内容】

- ・Fujisakiday(2023年10月7日・8日@八木山動物公園フジサキの杜)
- ・せんだいクラシックフェスティバル(2023年9月29日～10月1日@日立システムズホール仙台)
- ・パフォーマンスフェスティバル(2023年11月25日～11月26日@日立システムズホール仙台)
- ・第6回障害と芸術文化の大見本市(2024年1月27日～31日@せんだいメディアテーク)



Fujisakiday 杜のマルシェだぞー！

3. エイブルアート・スタジオ事業

【方針】

- A.運営委員会による独立採算事業を実施する。
B.セミナーやサロン等、人が集う場や企画を実施する。



エイブルアート芸術大学 美術学部

【内容】

■東京会場

会場:泉岳寺 庫裏(東京都港区/2023年3月26日より)

特記:

- ・ポレポレの運営は渡辺一充さん、エイブルアート芸大の運営は宮原さんと家族・ボランティアが中心。
- ・港区NPO活動助成金に申請し、バリアフリー対応等環境整備を行った。

活動名	ファシリテーター	活動日	登録メンバー数、参加費
アトリエ・ポレポレ	サイモン順子	毎月第2、4土曜日 13:30～17:00	登録メンバー:25人 年会費5,000円 1回2,500円 ビジター会員
エイブルアート芸術大学	中津川浩章	毎月第1土曜日 14:00～17:00	登録メンバー:30人 年会費3,000円 1回2,500円

■東北会場

会場:仙台フォーラス7階 エイブル・アート・ジャパンフリースペース
(仙台市青葉区/2022年8月より)

特記:2018~2021年度までは東京2020オリンピックパラリンピック競技大会に伴う仙台市文化プログラムとして実施。2022年度から公益財団法人仙台市市民文化事業団の助成事業に申請し採択。継続して実施することができている。



「みんなでつくるよ広場の人形劇！」ワークショップの様子

「アトリエつくるて」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
創造	定期的な創作活動	佐竹真紀子(美術作家)、じょうじこずえ(アーティスト)	年5回	83人、1,000円
発表	「アトリエつくるて展」を開催。 参加者自ら、作品展示の準備(額装等)と、展示作業を行った。		作品展準備:2/11 展示作業:2/18 「アトリエつくるて展」 2024/2/19~2/25 会場:TURN ANOTHER ROUND	出展者10人、1,000円
鑑賞	参加者が新しい表現方法に出会う機会として、宮城県美術館の常設展を見に行く会を開いた。		2023/6/11	8人、1,000円

「みんなでつくるよ広場の人形劇！」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
創造	定期的な創作活動	工藤夏海(美術家) ゲスト:山路智恵子(即興演奏)、菊池聰太朗(美術家)	年3回	25人、1,000円
発表	ワークショップで制作した人形と楽器を持ってぶらんど～む一番町商店街を往復する「さまよいぱれーど」を2回実施した。	工藤夏海(美術家) ゲスト:菊池聰太朗(美術家)	年2回 ・2023/6/10(どんどこ市) ・2023/12/3	パレード参加:無料
鑑賞	参加者や運営者が新しい表現に出会う機会として、地域でおこなわれている人形劇や人形劇にかかわる公演等を鑑賞する機会をつくった。	工藤夏海(美術家)	年2回 ・2023/12/24 人形劇団ポンコレラ公演「○と○」 ・2024/2/25 上映会「まちとまなざし」	12/24 4人 2/25 4人

活動の種類	内容	価格
冊子制作	2018年度から本事業で実施するワークショップを、ファシリテーター、参加者、スタッフ、関係者で振り返り、意義や手法を広く伝える冊子等の広報物を制作した。 福祉・教育施設、人形劇団、生涯学習・文化施設等に無料配布。書店等で販売。	880円



広場の人形劇
記録冊子

4. エイブルアート・カンパニー事業

【方針】「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を開く。



エイブルアート・
カンパニー

【内容】

A. 基盤整備

- ・第14期の新規作家募集を行い、85名の応募があり、現在事務局で最終調整を行っている。現在公開している登録作家／作品数は118名／12,733点。
- ・社会的な潮流による追い風もあり、教育関連等の新たな領域の企業・団体からの問い合わせが増えたほか、継続的に協働している企業とも新たな展開を生み出すことができた。
- ・作家の活躍の場づくりや、作家のデジタル環境導入の支援、国外交流プログラム等、作品使用だけでなく作家本人の活動や環境整備の支援にも取り組んだ。なお、作家を支援する取り組みでは、「一柳ウェルビーアーティスト基金」の助成を受けて実施した。
- ・3法人4事務局間のコミュニケーションツールの活用や情報共有、業務のタスク管理の継続。

B. 著作権マネジメント

- ・社会的な潮流による追い風もあり、教育関連等の新たな領域の企業・団体からの問い合わせが増えたほか、継続的に協働している企業とも新たな展開を生み出すことができた。
- ・オンライン会議のバーチャル背景への作品使用や、NFTアートやメタバースに関する取り組み等、デジタル社会の需要に応えるような新しい形での作品使用にも柔軟に取り組んでいる。

【事例】

□東洋館出版社

全国の特別支援学校でテキストとして採用されている、東洋館出版社の大気シリーズ「くらしに役立つ」。2024年度版 改訂新版の表紙に作品が採用された。



東洋館出版社『くらしに役立つ』

□カンコー学生工学研究所

「学生工学」という考え方に基づき、制服を通して新たな価値を創出するカンコー学生工学研究所様に、ダイバーシティをテーマに研究中の制服デザインとして、アーティストの作品が採用された。

□トヨタ自動車株式会社

トヨタ自動車が以前より取り組んでいるアマチュア・オーケストラを対象とした応援事業「トヨタコミュニティコンサート」とのコラボレーションを行った。昨年、仙台、奈良の2つのコンサートで障害のあるアーティストによるロビー展示を行ったが、今年は、新たな取組として富山県、栃木県で登録外の作家や組織に繋ぎ、展示の機会を作った。

C. アーティスト個人にフォーカスを当てた取り組みの企画・実施

- ・作家との密な連携を図りながら協働を行い、多様な描きおろしへの対応を継続した。

・作品の二次利用だけでなく、より作家本人の創作や人間性に視点を向け、直接的なサポートにつながる事業を実施。アーティストとしての成長を促すとともに、作家個人の周知や社会への進出に向けたマネジメントを行った。

【事例】

□MHD Artists Scholarship Program(MHDアーティスト・スカラシップ・プログラム)

法人会員であるMHD(モエヘネシーディアジオ)Public Affairs & CSRとの取り組み。エイブルアート・カンパニーの登録作家に加え、社員交流したアーティストから、スカラシップ対象者を募集。作家の実現したい夢を、社員が選考する。オンラインと対面にて、アーティストによる成果報告、受賞者と社員が交流し抱負を語る時間が生まれた。4年目も引き続き、東京ほか国内のオフィスで作品を展示し、作家と社員が交流した。

□障害の重度化・家族の高齢化・デジタル化への対応難等生活と社会の変化にもつなう作家支援プログラム

デジタル化への対応サポートとしてレンタル機材の無償貸し出しや、作家同士のオンライン交流プログラムを実施した。

助成：一柳ウェルビーイングライフ基金

D. メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、株式会社ハーバー研究所(美容部、経営企画部宣伝・PR課)との共同開発事業。福祉事業所、家で取り組める動画の配信と教材の提供を行う「オンラインメイク講座」を継続。受付、参加費回収、アンケート回収等の業務を行う。

(詳細)http://www.ableart.org/topic/project/202007_skincare&make.html(現在、本ページの一般公開は停止中)

5. 鑑賞支援事業

A. 美術と手話プロジェクト

【主な活動内容】

- ・プロジェクトメンバー定例会議(月1回)
- ・手話通訳の提供、美術館、企業、行政、教育機関等との連携事業
- ・外部から寄せられた手話通訳や文字通訳つきのプログラムについて「情報ひろば」への掲載
- ・自主事業の企画・検討



美術と手話
プロジェクト

【事例】

・武蔵野美術大学GGP(Glass × Geibun Project)2023の展覧会における協力

・六本木アートナイト2023 インクルーシブ・アート・プログラム 手話通訳

・NHK「ろうを生きる、難聴を生きる」出演

*事業パートナー：西岡克浩(プロジェクト代表/会社員、AAJ会員)、市川節子(手話通訳士)、太田好泰(NPO法人代表、AAJ会員)、小谷野依久(会社員、東京都中途失聴・難聴者協会理事)、田中真理子(手話通訳士/大学学生支援)、和田みさ(手話通訳士)、柴崎由美子(AAJ理事)、高橋梨佳(AAJスタッフ)

B. 企業・社会貢献事務局＆首都圏の美術館等 鑑賞 運営サポート

企業社員によるボランティア活動に「障害のある方のための特別鑑賞会」がある。その事業の現地鑑賞会のミュージアムトークに手話通訳派遣や情報保障(UDトーク文字修正)、情報発信にて協力した。

期間：2023年秋～2024年春 2回実施

C. 六本木アートナイト2023関連企画 インクルーシブ・アート プログラム 企画運営

リアル開催およびオンライン開催を各1回実施

期間:2023年5月27日(土)・28日(日)
全体総括:六本木アートナイト事務局
企画協力・コーディネーター:NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

【プログラム①】鑑賞ツアー「みんながおしゃべりトラベラー！」※手話通訳あり

- ・日時:5月27日(土) 14:00~16:00
- ・会場:現地(国立新美術館内)
- ・対象:鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10人程度)
- ・参加者:11人(うち聴覚障害7人)
- ・内容:国立新美術館内展示の作品を中心に、視覚障害・聴覚障害のあるファシリテーターとともに対話による作品鑑賞を行った。ツアー後には会議室で感想を共有する時間を設け、対話を深める構成とした。
- ・実施体制
ファシリテーター:井戸本将義(視覚障害)、徳江サダシ(聴覚障害)
手話通訳士:村山垂穂、和田みさ、小松智美、村山春佳
ラーニングキュレーター:白木栄世(森美術館)
進行:エイブル・アート・ジャパン



鑑賞ツアー「みんながおしゃべりトラベラー！」の様子

【プログラム②】オンライン鑑賞会「空想シェアライン」

- ・日時:5月28日(日) 14:00~16:00
- ・会場:オンライン(Zoom)
- ・対象:鑑賞会に関心のあるすべての人、発達障害の人、精神障害の人等(定員10人程度)
- ・参加者:8人(うち発達障害等2人)
- ・内容:発達障害、精神障害のあるファシリテーターと一緒に、六本木アートナイトの作品を鑑賞しながら自由に想像を膨らませて対話をするオンラインプログラムを実施した。
- ・実施体制:
ファシリテーター:ウルシマトモコ、岩田ゆず子
進行:エイブル・アート・ジャパン



オンライン鑑賞会「空想シェアライン」の様子

D. 横浜トリエンナーレ関連企画 アクセスプログラム 企画協力

横浜美術館の教育普及グループから、すべての人が横浜トリエンナーレを楽しめる鑑賞プログラムの企画協力の依頼があり、オンライン(Zoom)での鑑賞会を企画した。鑑賞会は令和6年度実施のため、内容の詳細は「審議資料2-1 2024年度 事業計画(案)」に記載。

E. 仙台クラシックフェスティバル2023街なかコンサート「せんぐら・リラックス・コンサート2023」運営サポート

障害児者等を対象としたクラシックコンサートを開催するのにあわせ、広報・アクセス・鑑賞等の支援を行った。(宮城県障害者芸術活動支援センター業務)
日時:2023年8月27日(日)2回公演



リラックスコンサート
ショートムービー
(2023年)

F. 国立アートリサーチセンター ラーニンググループ 「DEAIリサーチラボ」への参加

独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンター ラーニンググループのアクセシビリティ事業の一環として、「DEAI(でい)リサーチラボ」が発足し、この研究会に參加した。



合理的配慮の
ハンドブック

「DEAIリサーチラボ」の様子

【活動内容】

- ・ミュージアムで実際に起こった合理的配慮に関する事例のリサーチ、レポートの執筆
- ・発行物『ミュージアムの事例(ケース)から知る！学ぶ！合理的配慮のハンドブック』の内容への助言

6. 企画制作事業

A. [全国]ミュージアム・アクセス・センター設立事業

3年目の活動となる2023年度(令和5年度)は、ミュージアム・アクセス・センター(以下、センター)の運用開始期として、センターの事業モデルとなる実践事例をもとにセンターの基盤整備に取り組み、2024年度(令和6年度)の首都圏での普及拡大期、2025年度(令和7年度)の全国への普及開始期に向け、全国展開へのネットワークの構築に着手した。



みんなで
ミュージアム

実践の紹介動画

【ワーキンググループ】

みんなでミュージアムメンバー(外部)3人 事務局6人

【事業概要】

□ミュージアム・アクセス・コーディネーターの実践、研修(東京・神奈川・埼玉)5件

聴覚障害/さいたま市立漫画会館、中川船番所資料館

視覚障害/紅ミュージアム、横浜市民ギャラリー

発達障害/横浜市民ギャラリー

□ミュージアム・アクセス・パートナーの実践、研修(東京・神奈川・秋田)7件

知的障害、視覚障害、ダウン症/東京

重度心身障害/東京、神奈川

視覚障害、聴覚障害/秋田

□みんなでミュージアムメンバーによる事業化定例会議:12回

□人材育成会議(有識者との意見交換・情報交流・勉強会):19件

□相談支援 相談件数56件

□オンラインプログラム「みんミの”わ”」:年5回

□運営会議:(内部)23回、(外部):8回

□シンポジウム:1回

□提言活動:年10回



視覚障害当事者コーディネーター実践
(紅ミュージアム/東京都港区)



重度心身障害児とのパートナー実践
(日本科学未来館/東京都江東区)

B. [東北]障害者の生涯学習をテーマにした実践研究

①せんだいまなびやネットワーク構築モデル事業

令和5年度は、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」を受託し、以下の事業に取り組んだ。

□連携協議会3回

□プログラム「スウブノアカデミア」7回(検討会2回、実践5回)、成果報告会1回

・東北事務局や仙台市生涯学習施設およびオンラインにて、主に土曜または日曜の午後に実施。



スウブ
ノアカデミア



スウブノアカデミア2023
「お酒とのつきあい方をまなぼう！」の様子

- ・プログラム参加者合計113人(うち当事者51人、ボランティア15人)
- ・成果発表会参加者合計60人(うち来場者35人、発表者7人、ボランティア10人)

□共に学び、共に生きる共生社会コンファレンス 東北ブロック
 会場:せんだいメディアテーク1階オーブンスクエア(一部オンライン配信で実施)
 参加者のべ:191人(第1部/グループⅠ前半:おはなしの会102人、グループⅠ後半:身体と表現14人、グループⅡてつがくカフェ32人、ディスカッション62人、第2部/全体57人)



□「第6回障害芸術文化の大見本市」にあわせて開催
 仙台市障害者自立支援協議会(4区)の「障害者相談支援事業所等連絡会議」、特別支援教育コーディネーター連絡協議会にて活動の事例紹介。

*事業パートナー:仙台市生涯学習課/特別支援教育課/障害企画課、仙台市生涯学習支援センター、仙台市立鶴谷特別支援学校、せんだい・みやぎNPOセンター、みやぎ生協、NPO法人ポラリス、東北大大学石井山竜平研究室、宮城学院女子大学梅田真理研究室、尚絅学院大学佐々木健太郎研究室、櫻井育子(生涯発達支援塾tane)、佐竹真紀子(一般社団法人NOOK)、ほか

②芸術銀河2023出前講座 企画・運営

□松島自然の家 ハートフルデイキャンプ2

日時:2023年11月4日(土)9:30~13:30

場所:宮城県松島自然の家(宮城県東松島市宮戸二ツ橋1)

共催:みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会



「みんなの音楽祭in松岩公民館」の様子

□みんなの音楽祭in松岩公民館

日時:2023年11月19日(日)13:30~15:00

場所:松岩公民館1階 アリーナ(気仙沼市松崎浦田143-1)

主催:みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会(芸術銀河)

共催:松岩公民館、特定非営利活動法人イブル・アー

ト・ジャパン

協力:社会福祉法人洗心会、宮城県教育委員会

③そのほか

宮城県教育委員会「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」(文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」受託)のコンソーシアムに参加。

C. [東北]宮城県・障害者芸術活動支援センター運営(受託事業)

①相談支援

宮城県内のべ 96個人/団体、宮城県外のべ 81個人/団体 合計 177個人/団体

相談件数177件(前年度139件／前年度比126%)

相談回数558件(前年度736件／前年度比75%)



SOUPの研修

SOUPの研修「障害のある人とデジタルアート」

②芸術文化活動を支援する人材の育成等

SOUPの研修(全3回)

第1回「障害のある人とデジタルアート」

第2回「創作体験」「障害と芸術文化の大見本市」

第3回「障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会」*

*厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業、2023年度持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業(助成:公益財団法人仙台市市民文化事業団)との連携事業として実施

③関係者のネットワークづくり

「地域格差の解消に向けた取り組み」「文化芸術団体との協働の促進」「生涯学習としての協働の促進」の3点に注力して実施。

④発表の機会の確保

催事名:第6回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、しつて、見本市。」

日時:2023年1月27日(土)~31日(水) 10:00-17:00

会場:せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

内容:[A]共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック、[B]障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会[C]ワークショップ・体験「まざってみる!ニユーカマーとコラージュ」、[D]Art for Well-being | 表現とケアとテクノロジーのこれから、[E]障害と芸術文化のブース「新設!宮城の福祉アトリエ」「デジタルアート最前線」「生涯学習と芸術文化」、[F]ニユーカマーセブン、[G]ひだまりのギフト展、[H]としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示、[I]手ではなすおはなしの会
来場者数:3,796人(5日間)



見本市レポート

⑤地域への主たる広報

<紙媒体>	障害と芸術文化の大見本市チラシ
・学校(仙台市管轄)	仙台市特別支援学校・特別支援学級:生徒数1,947人
・学校(宮城県管轄)	宮城県特別支援学級:児童・生徒数2,716人、宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含:生徒数2,520人
・福祉、文化、教育関係機関(宮城県)	仙台市内福祉施設440件、宮城県内福祉施設295件(それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み)
・行政、美術館、図書館等文化施設(仙台市)	仙台市市民センター、区役所 障害高齢課、仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置

D. [東北]そのほか 宮城県在住の障害者アーティストの支援(国内外の展示発表・二次利用等)

- ・「わたぼうし音楽祭」(2023/8/5・6、DMG MORI やまと郡山城ホール):フレンズドリーム(仙台市)
- ・「SENDAI SDGs Week2023」(2023/9/18、ぶらんどーむ一番町商店街アーケード内、2023/9/23・24、勾当台公園いこいの広場):県内アーティスト10名
- ・「Fujisakiday」作品展示(2023/10/7・8、八木山動物公園、仙台市):本多遼(仙台市)、公募に応募した県内アーティスト
- ・「みんなの音楽祭in松岩公民館」(2023/11/19、松岩公民館):フレンズドリーム(仙台市)
- ・「福祉と表現と仕事 ART EXHIBITION」(2023/12/1-19、仙台フォーラス4階):片寄大介(仙台市)、King K(仙台市)、高野 翼(仙台市)、NPF_hiroyuki(南三陸町)
- ・「福祉と表現と仕事 SHOP/WORKSHOP」(2023/12/8-10、仙台フォーラス1階):県内4施設のアーティスト24人(のぞみ福祉作業所、アート・インクルージョン・ファクトリー、多夢多夢舎中山工房、わらしべ舎羽黒台工房)
- ・「第6回きいて、みて、しつて。見本市」(2024/1/27-31、せんだいメディアテーク1階オープンスクエア):邦助(柴田町)、くりこま「ゆめ工房」(栗原市)、佐藤瑠乃助(仙台市)、清宮玲(仙台市)、仙台みらい高等学園文化部(仙台市)、高橋博行(南三陸町)、松本理沙(仙台市)
- ・「MHD スカラーシップ 報告展示会」(2024/1/15-31、東京および仙台):奏(仙台市)

- ・株式会社藤崎の中元のカタログに作品採用:北村絵里(多夢多夢舎中山工房、仙台市)
- ・株式会社ハーバー研究所「ハーバーの美容手帖」2024年ホロスコープ(12星座)描き下ろしに採用:清水敬太(アート・インクルージョン、仙台市)
- ・NHK Eテレ「no art,no life」7月23日(日)松浦繁(仙台市)、8月20日(日)首藤和子(のぞみ福祉作業所、南三陸町)
- ・トヨタ自動車「C+Podカラーラッピング」:清水敬太(アート・インクルージョン、仙台市)
- ・「令和5年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務」バーチャルギャラリー(9/18-12/28、オンライン):県内アーティスト10名
- ・「Fujisakiday」タイトルロゴ、ポスター、ほかに作品採用:本多遼(仙台市)※以下の【特記】参照
- ・宮城県社会参加推進センター「全国障害者スポーツ大会」宮城選手団の手旗に多夢多夢舎中山工房(仙台市)製作の手ぬぐいを使用
- ・仙台市「障害理解啓発に関する広報業務」のウェブサイトに作品採用:竹内聖太郎(多夢多夢舎中山工房、仙台市)
- ・「県民ロビーコンサート」(宮城県)のノベルティに作品採用:片寄大介、竹内聖太郎(多夢多夢舎中山工房、仙台市)

等

【特記】Fujisakiday

日時:2023年10月7日(土)・8日(日) 9:00-16:00

会場:八木山動物公園フジサキの杜

動員数:合計9,442人

内容:八木山動物公園の命名権(ネーミングライツ)契約を結んでいる百貨店・藤崎が主催で開催したイベント「Fujisakiday」に障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)として、以下の取り組みで協力した。

・期間限定ショップ『杜のマルシェin八木山だズー!』の企画・運営

・シジュウカラガニの作品公募と展示(作品を商品に使用)

※昨年度、ロゴデザインに使う作品の作家を紹介し、今年度も継続。

E. [南東北・北関東]障害者芸術活動支援センターの南東北・北関東広域センター運営

【内容】

南東北・北関東ブロックは、6県すべてに支援センターが設置されている。宮城県(2014[平成26]年-)・栃木県(2017[平成29]年-)・福島県(2019[平成31]年-)・山形県(2020[令和2]年-)・群馬県(2023[令和5]年-)・茨城県(2023[令和5]年-)が活動した。広域センターは、2021[令和3]年度より当法人が運営している。



南東北・北関東
広域センター

【実施事業】

- ブロック支援センター連絡会議(全5回オンライン)
- ブロック支援センター研修(全5回オンライン)
- なんでも相談会(全3回オンライン)
- 支援センター発足初年度である群馬県と茨城県の個別の支援
- 新規事業「出稽古」(ブロック内の支援センターを訪問し、事業の見聞を通してそれぞれの課題や実践地を共有しあう)
- 広域センター、連携事務局との協働、評価と報告



出稽古の様子(もうひとつの美術館/栃木県)

*事業パートナー:武田和恵(社福愛泉会ギャラリーら・ら・ら/やまがたアートサポートセンターら・ら・ら/山形/AAJ会員)、小林竜也(社福安積愛育園/はじまりの美術館/福島)、梶原紀子・五味渕仁美(認定特非もうひとつの美術館/とちぎアートサポートセンターTAM/栃木/AAJ会員)、茨城県障害福祉課(茨城)、小堀幸子(特非ちいきの学校/茨城)、津田優希(ROKUROKURIN合同会社/茨城)、吉田征雄(特定非営利活動法人あめんば/群馬)、鈴木隆子・多胡宏(一般社団法人あつたらいいなをカタチに/群馬)

F. [国際交流]

【イギリス】

イギリスのシェイプ・アーツからの仲介による、美術家・ジェイソン・ウィッシャー・ミルズさんと日本の作家との交流を継続。出会いや交流、協働の証として、メンタリングセッションに参加した国内の障害のある作家9人の作品を取り入れたバルーン型の彫刻作品の寄贈を受け、東北での主催イベント等で展示を行った。引き続き国際的な交流と、イギリスでの日本作家・作品の展示計画に向けて話し合いを継続していく。



バルーン型の彫刻作品

【韓国】

2023年1月に韓国のメディア「国民日報」の文化記者が来日、取材対応をしたことをきっかけに国民日报主催の国際シンポジウム(9月21日、韓国ソウル市・国立美術館)に招聘。交換留職のパートナー団体であるベトナムのtoheのVanさん(前CEO)、韓国のジョンオンスンさん(たんぽぽの家の日韓交流で振興を深めた現代アーティスト)などと交流した。なお、これを契機に、1. 韓国済州島にオープンする現代美術ギャラリーへの作品導入(関係者紹介)、2.韓国の障害のある人によるオーケストラ仙台公演のアウトリーチ事業のサポート、を実施した。

7. 調査研究事業

認定NPO法人全国こども食堂ネットワークむすびえ(代表:湯浅誠さん)を事務局とした「クリエイティブ・リンクワーカー協議会準備委員会」にオブザーバーとして参加した。文化施設、アートNPO、こども食堂などの場において活動するアーティスト(音楽家、演劇人、美術家等)と、その活動を促進するコーディネータを育成し、政策提言していくための組織。NPO法人エイブル・アート・ジャパンのこれから活動のポジショニングも視野に入れて月1回程度の定例会議に参加。また、内閣府による孤独・孤立対策推進交付金(地方における孤独・孤立対策推進事業)の宮城県での実践を観察・検証した。

8. 出版事業

- 既存の書籍を販売した。
- [東北]での「みんなでつくるよ広場の人形劇！」の活動をまとめた冊子『みんなでつくるよ広場の人形劇！2018→2023 人形劇ワークショップの記録とそのつくりかた』を制作。ウェブサイトにPDFを掲載し、かつオリジナルポストカードつきで冊子の販売を始めた。

9. 助成事業

フェリシモによる寄付「小さなアトリエ基金」を継続。
基金の拠出先は、ten seeds(石川県金沢市)。

10. そのほか目的を達成するために必要な事業

A. 大和リース株式会社職員向け研修

商業施設の設計等を行う大和リース株式会社の社員を対象に、障害のある人の特性や合理的配慮について理解を深めるための研修と意見交換を行った。

【①商業施設の視察】

内容: 視覚、聴覚、精神、発達障害のある当事者が、大和リース株式会社が設計した仙台市内の商業施設を視察し、合理的配慮の観点から施設の改善点等を社員にフィードバックした。

日時: 2023年11月15日(水) 10:00-12:00、13:00-15:00

【②社員向け合理的配慮の研修と意見交換会】

内容: 社員を対象に、障害の特性についてのレクチャー



大和リース株式会社
「ブランチ仙台」視察の様子

(視覚、聴覚、発達、精神障害:各15分程度)、11月15日の商業施設視察の感想共有、社員との意見交換を行った。

日時:2023年12月7日(木) 10:00-12:00

B. 情報発信にかかる組織基盤整備について

コミュニティ形成(受益者・協働者ならびに会員・ボランティアの拡大)に向けて、①情報発信にかかる仕組みの整備と研修、②顧客管理システム「Salesforce」の活用支援、の内容で専門家にアドバイザーの依頼をして取り組んだ。

①では、研修を通じて、団体内でペルソナの設定やカスタマージャーニーマップ、KPT、ユーザーテストの手法を学ぶことができた。また、ミュージアム・アクセス・センター設立事業のウェブサイトを対象にユーザーテストを実施した結果を、ウェブサイトの改修に反映させた。

②では、「Salesforce」の利用に際して設定を整備し、会員やステークホルダーの情報の整理が進んだ。一括メール送信機能の利用で、より効果的なキャンペーン活動を始めた。

助成:日本NPOセンター「東日本大震災現地NPO応援基金 第4期・第2回助成

C. ボランティア・インターンの受け入れ、事務局センターの設定

ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていくよう試みた。とくに東北事務局でそれが充実した。

D. エイブル・アート・ムーブメントの協働団体との連携

一般財団法人たんぽぽの家による事業への協力(「New Traditional」事業、「Art for Wellbeing」事業ほか)

E. 報告に関連する参考資料「広報メディア掲載実績等」(添付)



たくさんのボランティアと運営した
スウプノアカデミア成果発表会

以上